



2019年4月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	56,094,799 万円	100.0%	100.5% (101.3%)	55,171,369 万円	98.5% (99.6%)
食 料 品	47,828,500 万円	85.3% (85.0%)	100.9% (101.1%)	45,711,203 万円	99.2% (99.4%)
農 産	7,069,729 万円	12.6% (12.7%)	100.5% (96.0%)	6,832,714 万円	98.9% (94.4%)
水 産	4,422,462 万円	7.9% (7.9%)	101.6% (101.7%)	4,271,234 万円	99.8% (100.0%)
畜 産	5,997,227 万円	10.7% (10.7%)	100.6% (103.5%)	5,785,767 万円	98.6% (101.6%)
惣 菜	5,757,137 万円	10.3% (10.0%)	102.5% (101.5%)	5,549,497 万円	100.5% (99.7%)
日配食品	10,707,604 万円	19.1% (18.8%)	100.1% (101.2%)	9,844,281 万円	98.4% (99.6%)
加工食品	13,874,341 万円	24.7% (24.9%)	101.0% (102.4%)	13,427,710 万円	99.5% (100.8%)
生活関連	3,401,351 万円	6.1% (6.0%)	98.4% (102.1%)	3,302,341 万円	96.7% (101.4%)
衣 料 品	1,551,492 万円	2.8% (2.8%)	92.7% (100.2%)	3,169,904 万円	90.7% (100.5%)
そ の 他	3,313,456 万円	5.9% (6.2%)	101.3% (103.3%)	2,987,921 万円	99.1% (100.7%)

② 数 値

全店総売上高	56,094,799 万円	店舗数	4,808 店舗
総売場面積	9,449,708.1 m ²	総従業員数	254,723 人

店舗平均月商	11,667.0 万円	平均客単価	1,892.3円 (101.4%)
月間m ² 売上(前月)	5.9 万円 (6.0万円)	平均店舗面積	1,965.4 m ²
月間坪売上(前月)	19.6 万円 (20.0万円)	パート比率(前月)	77.1% (77.1%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 4月の天候は、沖縄・奄美を除き、ほぼ全国的に気温が前年を下回った。日照時間はほぼ全国的に多く、降水量は沖縄・奄美で多かった。
- ・ 桜の開花状況について、本年は前年より気温が低い地域が多く、東京都心と西日本の一部の地域を除き、今月に入り満開となった地域が多かった。
- ・ 生鮮品の相場状況について、農産物では野菜相場の全体が前年並みからやや高値まで回復をした。水産物では、入荷量が前年より少なく、大衆魚を中心に卸売価格は高値で推移した。畜産物では、豚肉の相場高が続き、鶏肉ではむね肉が相場安であった。
- ・ 前年同月と比較して、日曜日が1回少なく火曜日が1回多い曜日廻りであったが、天皇退位の日が祝日であったため、日祭日の回数で見ると前年と変わらなかった。

《 商品動向 》

・ 農産

- ・ 野菜相場が上昇、一品単価がアップし、農産全体の売上が改善された。
- ・ 新じゃがいも・新たまねぎ・菌茸類が好調であった。
- ・ 果実は、いちごが好調であった他、キウイフルーツやアボカド、輸入ぶどうが好調であった。

・ 水産

- ・ 寿司や刺身などの生食類は概ね好調であった。
- ・ 丸物については、真あじの水揚げ量が多く、売上が伸長した。
- ・ 活あさり等の貝類・海藻類や塩干類は不調だった。
- ・ アニサキス対策として、かつおの販売方法の見直し（生から冷凍、たたきなどに変更）をする企業が多くみられた。

・ 畜産

- ・ 牛肉は、輸入牛ステーキ用が好調。焼肉用については、好不調が分かれる結果となった。
- ・ 豚肉は、全体的に不調とのコメントが多くみられた。

・ 惣菜

- ・ 米飯類・麺類・丼もの類・中華惣菜は概ね好調であった。
- ・ 行楽用のおつまみ類や唐揚げは概ね好調であった。
- ・ 気温低下の影響により、涼味商材やサラダ類は不調であった。

- ・ 日配・加工食品

- ・ 日配では、値上げの影響により、牛乳・ヨーグルト・デザート等の乳製品が不調であった。
- ・ 気温低下の影響により、飲料・ビール・アイスが不調であった。一方、インスタントコーヒーやインスタント麺、スープなどのホット商材の売上は好調であった。
- ・ テレビ番組の影響により、納豆・梅干し・甘酒・えごま油などの健康油や、サバ缶など魚缶詰の好調が継続している。

- ・ お花見の状況について

- ・ お花見需要では、行楽用のお弁当やおつまみ類が概ね好調であった一方、気温の低下の影響により、酒・飲料・珍味類が不調であった。

- ・ ゴールデンウィーク前半の状況について

- ・ 新元号への改元を祝うお祝いメニューの提案が多くみられたが、大型連休と重なったため来店客数が伸びず、売上は厳しかったというコメントが見受けられた。

以 上